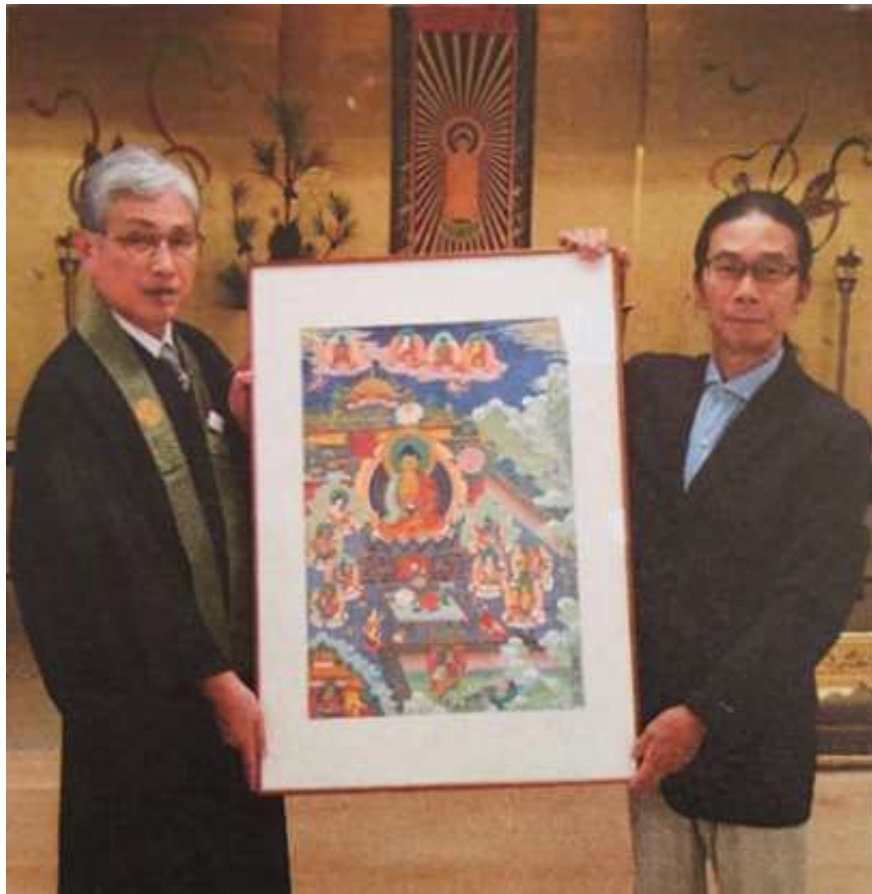


BABASAKI KENJI TIBETAN THANGKA

東本願寺佐世保別院に寄進 2016年10月

Donation To HIGASHIHONGUANJI, Sasebo

「阿弥陀如来浄土図」を別院へ寄進
ーチベットタンカ絵師馬場崎研二さんー



2016年(平成28年)10月6日、馬場崎研二は真宗大谷派(東本願寺)佐世保別院を訪れ「阿弥陀如来浄土図」を寄進しました。そのもようが「佐世保別院だより 第93号(2016年10月16日)」に報じられましたので、転載させていただきました。写真も別院だよりからの転載で左は武宮 學輪番。なお原文は縦書きですが、ここでは横書きにいたしました。ご了承ください。

寄進は去る十月六日別院講堂にて行われた。お礼を述べた輪番と馬場崎さんの間で、対話が始まった。

輪番 日本人が思い描く阿弥陀の西方浄土のイメージとは大分違いますね。阿弥陀の脇侍に左右八人の菩薩が描けています。日本ではせいぜい観音、勢至の二菩薩です。しかも空には四如来がいます。

馬場崎 それでも観音菩薩、弥勒菩薩、虚空蔵菩薩、普賢菩薩、金剛手菩薩、除蓋障菩薩、文殊菩薩、地蔵菩薩など日本のどこにでも伝わっている菩薩たちでしょう。

輪番 なるほどそうですね。描かれている四如来を見て思い出しました。親鸞聖人流罪の地、越後に五智如来を本尊として安置している国分寺がありました。境内の一角に、聖人が数年を過ごされたという竹ノ内草庵があります。あそこは大日如来を中心に左右は阿闍如来、阿弥陀如来、宝生如来、不空成就如来でした。この絵の如来は、どのような仏たちですか。

馬場崎 それは同じです。曼荼羅においても常に描かれる仏たちです。

BABASAKI KENJI TIBETAN THANGKA

輪番 立ち入って失礼ですが、チベットに三十何年かも住んで、仏画を描いて生活されていたのですよね。

馬場崎 いつの間にかそうなっていました。

輪番 チベットのことは、何も知りませんが、日本のような豊かな国でないでしょうし、第一、描かれた仏画は誰が求めて、どこに安置されるのですか。

馬場崎 タンカというものは「軸装された仏画」と云うと分かり易いと思いますが、チベットの人たちは、タンカを用意して供養することで、大事さを表現します。だからどのようなタンカを描いて供養の場に掲げるかは、死者と残っている生者の関係、生者が死者をどのように受け止めているかによって変わります。

輪番 あの布の軸装は法事で用いる形ですか。何の意味か少し分かりかけてきました。私たちはアミダー仏を本尊としてそれが慣れっこになっていますが、タンカには何人もの仏があり、菩薩があり、羅漢があり、飛天があり、神々があり、聖者があり、先祖らしき人々のようなものがある。おどろおどろしい形相をもつものもある。チベットの人たちの生活に根ざしている世界観ですね。

馬場崎 そうです。人間は輪廻転生するということを深く受け入れているように思います。

輪番 生活も困窮しているであろう人たちがよくそこまで丁寧にしますね。

馬場崎 人間の精神性は物質の豊かさと反比例するように感じています。死者の供養、四十九日忌さえ勤めなくなっている社会を作ってきた日本の貧しさは、チベット仏教徒とは比較もできない。

—対話は続くが、中で輪番から報恩講への出講依頼がなされて区切りになった。—

以上、「佐世保別院だより 第93号(2016年10月16日)」より転載

